昭和二十六年発行

『高田乃民謡』

編集部

昭和二十六年に発行された『高田乃民謡』というB6判の小冊子がある。
編集発行人は高田市産業課長で発行所は市役所とある。
内容は「雪月花」「さらさらと」「雪のお山で」「高田スキー音頭」「スキー小唄」「雪音頭（秒）」「花見小唄」「春日山節」「第六回国体スキー大会賛歌」と民謡がならび、巻末に「料理店案内」「高田芸妓連」と料理屋、旅館、置屋と芸者さんの名前が載っている。
これらの民謡は、昔は良く聞いた覚えがあり、懐かしい歌が多い。
内容の一部を紹介します。

雪月花

相馬御風 校訂
福田蘭童 作曲

雪

ゆうべ牡丹雪　けさ玉あられ
早く見やんせ　高田の森は
駕いお化粧で　ちょいと招ぐぞえ

雪見ばかりで　帰らりょかままよ
薬師山の上　スキーを穿いて
意気な姿で　チョイと滑るぞえ
滑るぞえ

月

越後高田は　春日の山よ
山は謙信公の　お生まれどころ

月にちります　アリャ松の露
松の露　月の春日山
越の国原　吹く秋風に
いとどさびしい　アリャ雁の聲
雁の聲

花

ほのりほんのり　雪かとばかり
花の高田の　かすんだ中で
花見小唄は　アリャ夢を呼ぶ
夢を呼ぶ

行こよ城址　手は手をとりて
ぼやり雪洞　花ちる蔭へ
見ごろ惚れごろ　アリャ夢見ごろ
夢見ごろ

高田スキー民謡

相馬御風 校訂
中山晋平 作曲
藤陰静枝 振付

さらさらと

さらさらと
こゝろ細かに雪が降る
スキーで行こうよね
行きましょうよね
広い野原をどこまでも
ツツツカツーツツツカツー

さらさらと
遠いこゝろに雪が降る
スキーで行こうよね
行きましょうよね
銀の山越えどこまでも
ツツツカツーツツツカツー

さらさらと
空は晴れたよ日はまぶし
スキーで行こうよね
行きましょうよね
野越え山越えどこまでも
ツツツカツーツツツカツー

さらさらと
星も遠くに見え出した
スキーで戻ろよね
戻りましょうよね

杜の高田へ灯の影へ
ツツツカツーツツツカツー

雪のお山で

雪のお山でリャーンとリャン
ジャンプにテレマクリャーンとリャン
クリスチャニヤでリャーンとリャンリャン
走ってころんでこーころころ
ちょいと休めばリャーンとリャン
松のかげからリャーンとリャン
佐渡ヶ島までリャーンとリャンリャン
ギーンラギラギーンラギラ
光がやく銀世界
ヤッコリャどうじゃありやどうじゃ
光がやく銀世界
リャンリャン

雪の山からリャーンとリャン
ジャンプにテレマクリャーンとリャン
クリスチャニヤでリャーンとリャンリャン
尻もち雪もち兎もち
ちょいと下ればリャーンとリャン
松のかげからリャーンとリャン
杜の高田のリャーンとリャンリャン
チーンラチラチラチンラチラ
戀し高田の灯が見える
ヤッコリャどうじゃありやどうじゃ
戀し高田の灯が見える
リャンリャン